

平成 20 年度

大学体育 FD 推進校表彰制度応募書類

大学体育自己点検・評価報告書

埼玉女子短期大学

目次

埼玉女子短期大学の概要……………	2
1. 教育目的・目標に関連して……………	3
2. 正課（保健体育）に関連して……………	4
3. 教員組織に関連して……………	10
4. 研究状況に関連して……………	13
5. 課外スポーツ活動支援に関連して……………	15
6. 健康管理業務に関連して……………	16
7. 各種サービスプログラム業務に関連して……………	17
8. 点検評価活動に関連して……………	18
9. その他……………	20
資料2 学生ハンドブック（抜粋）……………	22
資料4 保健体育関連科目の時間割表……………	24

埼玉女子短期大学の概要

埼玉女子短期大学を設置運営する学校法人川口学園は、1969 年（昭和 44 年）に設立された。川口学園が展開する事業には、本学の他に早稲田速記医療福祉専門学校、生涯学習センター、早稲田通信教育センターがある。学園の前身は、早稲田式速記法創始者の川口渉が 1935 年（昭和 10 年）に創設した「早稲田式速記普及会」である。

埼玉女子短期大学(以下本学)は、1989 年(平成元年) 埼玉県狭山市に商学科・英語科の 2 学科で開学し、1993 年（平成 5 年）に学位授与機構認定専攻科(商学専攻・英語専攻)を開設した。その後、1999 年(平成 11 年)に埼玉県日高市の新キャンパスへ移転し、2001 年(平成 13 年)には英語科を国際コミュニケーション学科に名称変更した。また、2004 年(平成 16 年)には本学の「インターンシップとキャリア短大構想」が文部科学省の「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代 GP）」に採択された。さらに、2007 年(平成 19 年)には ANA(全日空)グループのシンクタンクである株式会社 ANA 総合研究所との産学連携・協力について基本合意書を締結した。

本学の敷地は 64,302 平方メートルで、校舎と体育館の総床面積は 12,058 平方メートルである。キャンパスにはクスギ林、ケヤキ並木、小川のせせらぎがあり、周辺は茶畑の中に住宅が点在する自然豊かな環境である。

2007 年度(平成 19 年度)の学生定員数は、商学科 150 人、国際コミュニケーション学科 150 人、総定員数は 600 名である。

各学科には多彩なコースがあり、2007 年度(平成 19 年度)の場合、商学科にはファッション・トレンド、サービス・トレンド、経営・会計、医療事務コンピュータの 4 コースがあり、国際コミュニケーション学科には観光・ホテル、エアライン・ホスピタリティ、ブライダル・コーディネート、留学・国際ビジネスの 4 コースがあり、さらに両学科共通コースとしてビューティー・キャリア、健康心理、情報コミュニケーション、キッズ&ベビーの 4 コースがある。

コースは絶えず見直しをし、具体的な職業をイメージしながら学生が学べるように、ニーズに合わせて名称や内容を変更している。2008 年度(平成 20 年度)には、従来コースを次のように名称変更した。サービス・トレンドをブランド・マーケティング、情報コミュニケーションと経営・会計を統合して会計事務コンピュータ、留学・国際ビジネスを海外留学・英会話、キッズ&ベビーを子ども文化とした。このようなスピーディーな変更が可能なのは、教職員の危機意識が高く、小規模校の特徴として体制変更の決定が短時間でできるからだろう。また、このような努力により、近年少子化に伴い定員割れする短期大学が増加する中、本学は定員を充足できていると思われる。(資料 1 大学案内、表紙、p.6、p.11、p.14~16、p.22~24、p.29、p.59、p.65 参照)。

1. 教育目的・目標に関連して

(1) 教育目的・目標に関する項目

a) 2007 年度(平成 19 年度)の状況説明

学園の創立者故川口渉は、教育の究極の目的は人づくりにあるとして、その心を「不偏・不羈」という言葉で示した。本学の建学の精神もこの心を旨とし、「中庸と自立」という言葉で表す。つまり、学問を愛し、中正・不偏の心を持つ人間性豊かな女性、自主独立の心を持ち、国際的な視野と総合的な判断力に富む女性を育てることを目指す。

本学では開学以来、一貫して即戦力となる人材育成を目指しており、国際化や情報化のあらゆる変化に対応し活躍できる能力を養うことに力を注いできた。授業科目にもその目指すところが反映されている。授業科目は一般教育科目と専門教育科目に分類されるが、一般教育科目には必修科目の「基礎ゼミⅠⅡⅢⅣ」と「キャリアデザインⅠⅡ」がある。「基礎ゼミ」はコース別にクラス編成し、基礎学力教育などを行っており、「キャリアデザイン」と連動させて実施することでキャリア形成をより堅固なものにしている。また、一般教育科目にはキャリア基礎選択科目群があり、自分の将来像に合わせて、社会人としての素養を身につけるための知識と技術を学ぶ。

専門教育科目は商学科と国際コミュニケーション学科に分類されるが、商学科では、多彩なビジネスシーンで必要とされる豊かな知識と確かな実務能力を養い、独自の視点と柔軟な発想を持つ真の実力派ビジネスウーマンを育成することを目標としている。

国際コミュニケーション学科では、コミュニケーションの手段としての英語力とコンピュータの運用能力や質の高いビジネスマナーを身につける。さらに自分を取りまく社会環境だけでなく海外の文化・歴史も理解する。次代の異文化交流の担い手となりビジネスや海外生活を通して、グローバルな視野で社会に貢献する人材を養成することを目標としている。

保健体育関連科目の位置づけだが、即戦力となる人材育成を目指す中で、健康や身体に関する深い教養のある女性の育成が主たる目標となるだろう。2007 年度(平成 19 年度)の保健体育関連科目が所属する種類ごとの教育目標は次の通りである。スポーツではスポーツに関する教養と知識を身につけることを目標とし、パフォーマンスではパフォーマンスに関する教養と知識を身につけることを目標としている。ビューティー・キャリアでは内面と外面の美を磨いて前向きな思考方法を身につけ、多方面で活躍する人材を育成することを目指し、健康心理では心と身体の健康に関する専門的な知識を身につけることを目指す。(資料 1 大学案内 p.11, p.13, p.21, p.30~31、p.35、表 3 参照)。

b) 点検・評価

本学はビジネス系の短期大学だが、健康や身体に関する深い教養のある女性の育成が望まれるコースを擁しているので、保健体育関連科目は教養教育としての役割にとどまらず、専門教育としての役割も求められている。その意味で本学における体育の位置づけは重要だ。

c) 改善方策

今後も、全学的な教育目的・目標に沿った中での保健体育関連科目の位置づけに配慮する。

2. 正課(保健体育)に関連して

(1) 教育(授業)目標に関する項目

a) 2007 年度(平成 19 年度)の状況説明

実技科目の教育目標は次のとおりである。スポーツに属する「健康科学・スポーツ実習 A,B,C」の目標は、健康体力作り、生涯スポーツ、運動の理解・楽しさ、技術の習得、他者とのかかわりなどである。パフォーマンスに属する「創作ダンス」の目標は、踊る、創る、観る、および仲間と関わる学習である。ビューティー・キャリアに属する「美容スポーツ実習 A,B」の目標は、身体の強化・調整・発見、呼吸法、心拍数、美容と心身の健康などである。さらに、健康心理に属する「ダンスセラピー」の目標は、ダンスを通して心身共に元気になる方法を学び理解することである。

講義科目の教育目標は次のとおりである。まず、ビューティー・キャリアに属する科目だが、「からだの科学」の目標は、女性のライフステージの変化に伴うからだの変化の理解である。「身体表現法」の目標は日常生活におけるノンバーバルコミュニケーションとしての身体表現の理解と実践である。次に、健康心理に属する「健康と生活」の目標は、健康づくりのための生活習慣の理解と実践である。(資料 3 シラバス p.22, p.28~30, p.112~115, p.120、表 3 参照)。

b) 点検・評価

いずれの科目もその所属する種類の教育目標に照らしながら、独自の教育目標の適切性を絶えず検討して来た。

c) 改善方策

「からだの科学」はビューティー・キャリアに属するので、今後は、内面と外面の美を磨き、前向きに人生を送るためのからだの理解という点をもっと強調しても良いだろう。同様に「美容スポーツ実習 A,B」の教育目標も、「健康科学・スポーツ実習 A,B,C」との違いをもっと鮮明にしてよいだろう。

教育目標の適切性については、今後も絶えず検討していく必要がある。

(2) 授業の方法に関する項目

a) 2007 年度(平成 19 年度)の状況説明

保健体育関連科目は、開学時は一般教育科目の中での必修科目(「体育実技」、「体育講義」)だったが、その後、選択科目となり、「健康科学・スポーツ実習」、「からだの科学」と名称変更した。さらに、コース制の導入により、専門教育科目にも保健体育関連科目が移動・増設され、それに加えて一般教育科目の中にも増設された。

2007 年度(平成 19 年度)の保健体育関連科目は、すべて選択科目であり、授業方法の詳細は表 1 のとおりである。

再履修者への対応についてだが、いずれも選択科目であることから特に行っていない。

本学では障害者を受け入れる体制はないが、実技科目では授業初回時に健康調査をして学生の把握をし、個別に対応している。けがや病気などで実技の受講が不可能になった場合は、状況に応じて対応している。また、心身面で配慮の必要な学生については学内全体で情報交換している。

b) 点検・評価

本学のカリキュラムは必修科目が少ないのが特徴だ。他大学では必修化されることの多い体育やコンピュータ、および商学科の英語は選択科目である。必修と選択どちらの授業方法が適切なのかについては、議論が分かれる部分だ。選択性の欠点は、教育の中で重視すべき体育を履修しなくても卒業できるという点だ。長所は、意欲的な学生が2年間を通して7コマの実技科目や3コマの講義科目を履修できる点だろうか。

c) 改善方策

今後も適切な授業方法を検討していく。

表1 2007年度(平成19年度)授業方法

授業形式	科目名	対象学年・学科	開講学期	必・選	単位	授業時間
実技	健康科学・スポーツ実習 A,B,C	1, 2 年 両	春・秋	選択	1	80分×14回
	創作ダンス	1, 2 年 両	秋	選択	2	80分×14回
	美容スポーツ実習 A,B	1, 2 年 両	春・秋	選択	1	80分×14回
	ダンスセラピー	1, 2 年 両	春	選択	2	80分×14回
講義	身体表現法	1, 2 年 両	秋	選択	2	80分×14回
	からだの科学	1, 2 年 両	秋	選択	2	80分×14回
	健康と生活	1, 2 年 両	春	選択	2	80分×14回

(3) 履修状況に関する項目

a) 2007年度(平成19年度)の状況説明

本学のコース制は緩やかで、学生は半期ごとにコース変更できる。学生は同一学科の他コース科目も履修でき、専門教育科目の選択科目として卒業必要単位に含めることができる。また、他学科科目の履修も2年間で14単位まで専門教育科目の選択科目として卒業必要単位に含めることができる。

2007年度(平成19年度)の「健康科学・スポーツ実習 A,B,C」と「美容スポーツ実習 A」は、定員40人に対し80人近い履修希望学生がいたので抽選を行った。「健康科学・スポーツ実習 A,B,C」の抽選優先順位は2年生、1年生の順であり、「美容スポーツ実習 A,B」の抽選優先順位はビューティー・キャリアコース学生、2年生、1年生の順である。しかし、2年生の中にも抽選に漏れた学生がおり、不満が残った。「ダンスセラピー」は定員20人をかなり超えたまま受け入れた。「創作ダンス」は5時限目に開講することで受講者が多く集まらないようにする工夫をしたので、適切な履修人数となった。(表2 2007年度(平成19年度)履修状況参照)

b) 点検・評価

抽選に漏れた学生が多数いる原因は、学生数の増加にコマ数が対応できていないためなので、次年度に向けて実技科目のコマ数の増加が望まれる。ただし、全学的な教育目的・目標に沿った中でのバランスに配慮してコマ数を検討しなければならないだろう。

c) 改善方策

改善方策として、2008年度(平成20年度)の「美容スポーツ実習 A」はコマ数を増やしたが、依然

として定員を上回る履修希望者数となった。しかし、2年生が抽選から漏れないようにするため、定員より20名超えて開講した。「ダンスセラピー」は5時限に開講することで適切な人数となった。「健康科学・スポーツ実習 A,B,C」も開講曜日や内容の変更および教員の変更によって履修希望者数の減少を図ることができた。ヨガの人気の根強いので、今後は「美容・スポーツ実習 B」にもヨガの内容を組み込んで履修希望者数の集中を緩和したい。

履修人数に関しては、同一時限に開講する裏科目への人数の集中度によって変化するので予測不可能な面もあるが、今後もより適切な履修のあり方を検討していく。

表2 2007年度(平成19年度)履修状況

教員名	科目名	開講期 ・コマ数	曜日・時 限	履修人 数	半期コマ数	半期延 べ人数
佐藤 節子 (専任)	健康科学・スポーツ実習 A (TA 須田)	春 0.5	木 2	35	春 4.5 秋 5.5	春 218 秋 302
	健康科学・スポーツ実習 A (TA 須田)	秋 0.5	木 2	41	(TA 付の 科目は 0.5 コマで換算 する)	
	健康科学・スポーツ実習 C	春 1	水 3	39		
	健康科学・スポーツ実習 C	秋 1	水 3	38		
	美容スポーツ実習 B	春 1	金 3	46		
	美容スポーツ実習 B	秋 1	金 3	23		
	ダンスセラピー	春 1	金 4	47		
	創作ダンス	秋 1	金 5	14		
	健康と生活	春 1	木 1	51		
	身体表現法	秋 1	木 1	71		
	からだの科学	秋 1	金 1	115		
鹿島 聖子 (非常勤)	健康科学・スポーツ実習 B	春 1	火 2	45	春 2	春 93
	健康科学・スポーツ実習 B	秋 1	火 2	34	秋 2	秋 69
	美容スポーツ実習 A	春 1	火 3	48		
	美容スポーツ実習 A	秋 1	火 3	35		
須田 邦彦 (TA)	健康科学・スポーツ実習 A	春 0.5	木 2		春 0.5	
	健康科学・スポーツ実習 A	秋 0.5	木 2		秋 0.5	

(4) カリキュラム構成に関する項目

a) 2007年度(平成19年度)の状況説明

保健体育関連科目の開講形態は、表1で示すように、すべて全学共通である。

保健体育関連科目の本学のカリキュラム体系への配置は表3のようになる。(資料2 学生ハンドブック p.16~17, p.22~23, p.30~31 参照)。

b) 点検・評価

本学のカリキュラムの特徴は、必修、学年、学科およびコースの縛りが少ないことである。学年の

縛りを設けて段階的に履修させたらどうか、などの議論は毎年出るが、募集の観点からみると、コースや学年に縛られることなく幅広く自由に、取りたい授業が受講できるということが学生にとって魅力のようだ。本学の保健体育関連科目のカリキュラムも、この本学の方針に沿っている。

c) 改善方策

今後も適切なカリキュラム構成を検討していく。

表 3 2007 年度(平成 19 年度)保健体育関連科目のカリキュラム体系別配置

科目群	区分	種類	科目名
一般教育科目	教養選択科目	スポーツ	健康科学・スポーツ実習 A,B,C
		パフォーマンス	創作ダンス
専門教育科目 (商学科)	専門選択科目	ビューティー・ キャリア (両学科共通)	美容スポーツ実習 A,B 身体表現法 からだの科学
専門教育科目 (国際コミュニケーション学科)		健康心理 (両学科共通)	健康と生活 ダンスセラピー

(5) 体力測定に関する項目

a) 2007 年度(平成 19 年度)の状況説明

本学では 1996 年より学内行事のスポーツデー時に体力測定を実施している。体力測定の位置づけはその年のスポーツデー実行委員の企画によって異なる。スポーツデーはゼミ対抗で様々な種目を競うので、体力測定をゼミ対抗種目として実施する年は多くの参加があるが、自由参加種目として実施される年は参加人数が少ない。参加人数は年によって 57 人から 285 人の開きがある。2007 年度は 76 人の参加があった。測定項目は、肺活量、背筋力、垂直跳び、握力(左右)、体脂肪率を毎年実施しており、2005 年より長座前屈を追加している。2007 年度に最も参加人数の多い項目は握力と肺活量である。

体力測定の運営は「健康と生活」受講学生に実施させているが、意欲を持たせるのに苦心している。

b) 点検・評価

体力測定の実施は労力を要するが、数値化することで本学の学生の特徴や年次ごとの推移の概要を捉えることができるという点に意義があるだろうし、学生達に多少なりとも体力に関心を持たせるきっかけにはなるだろう。

体力測定方法に関しては、現状のやり方が最適とは言えないが、保健体育関連の専任教員が 1 名のみという現状からは、これで手一杯という感がある。

c) 改善方策

体力測定の運営についてだが、学生たちが意欲的に実施できるように事前の方向付けをさらに工夫したい。体力測定コーナーの掲示物や測定器具のレイアウトなどについては今後更なる工夫が必要だろう。測定項目に関しては新たな内容の追加などを検討することは可能である。今後も測定方法の工夫を重ねてより適切な実施が継続できるようにしたい。

(6) 成績評価に関する項目

a) 2007 年度(平成 19 年度)の状況説明

本学の成績評価は合格が AA(100~90 点), A(89~80 点), B(79~70 点), C(69~60 点)で、不合格が D(59 点以下)である。

保健体育関連科目の評価基準は、実技科目は出席平常点 80%、レポート 20%で、2 単位の実技科目のうちダンスセラピーのみ出席平常点 60%、レポート 40%である。講義科目は出席平常点 50%、定期試験またはレポート 50%である。出席平常点には出席状況の他に受講態度も含まれる（資料 2 学生ハンドブック p.39、資料 3 シラバス p.22, p.28~30, p.112~115, p.120 参照）。

成績分布だが、本学では特に取り決めはないので、教員によって分布は異なる。同一教員が担当する実技科目の中には学期の違いによって成績分布の違いが生じているが、これは主に受講学生の出席状況や受講態度などの違いによる結果だといえよう。(表 4 2007 年度(平成 19 年度)保健体育関連科目の成績分布参照)。

b) 点検・評価

本学では、すべての科目について成績評価の基準を講義要項に示しているが、成績分布については明確になっていないので、今後統一させるかどうか議論が必要だ。

保健体育関連科目の評価基準は適切と考えられる。

c) 改善方策

今後、保健体育関連科目の成績分布について、より適切な指針を模索していきたい。

表 4 2007 年度(平成 19 年度)保健体育関連科目の成績分布

科目名・開講学期	学科 担当 形式 必選	学生数 (N)						比率(%)					
		AA	A	B	C	D	計	AA	A	B	C	D	
健康科学・スポーツ実習 A 春	両 佐藤 (TA 須田) 実技 選択	13	11	2	3	0	29	45	38	7	10	0	
健康科学・スポーツ実習 A 秋	両 佐藤 (TA 須田) 実技 選択	10	9	2	0	0	21	48	43	10	0	0	
健康科学・スポーツ実習 B 春	両 鹿島 実技 選択	5	8	15	8	1	37	14	22	41	22	3	
健康科学・スポーツ実習 B 秋	両 鹿島 実技 選択	14	5	4	3	0	26	54	19	15	12	0	
健康科学・スポーツ実習 C 春	両 佐藤 実技 選択	20	12	4	1	0	37	54	32	11	3	0	
健康科学・スポーツ実習 C 秋	両 佐藤 実技 選択	9	18	5	2	0	34	26	53	15	6	0	
美容スポーツ実習 A 春	両 鹿島 実技 選択	8	15	12	9	1	45	18	33	27	20	2	
美容スポーツ実習 A 秋	両 鹿島 実技 選択	13	7	3	2	0	25	52	28	12	8	0	

美容スポーツ実習 B 春	両 佐藤 実技 選択	30 4 6 0 1	41	73 10 15 0 2
美容スポーツ実習 B 秋	両 佐藤 実技 選択	6 7 6 1 0	20	30 35 30 5 0
ダンスセラピー 春	両 佐藤 実技 選択	8 28 5 3 0	44	18 64 11 7 0
創作ダンス 秋	両 佐藤 実技 選択	0 5 1 1 0	7	0 71 14 14 0
健康と生活 春	両 佐藤 講義 選択	15 20 8 0 0	43	35 47 19 0 0
身体表現法 秋	両 佐藤 講義 選択	21 15 12 9 1	58	36 26 21 16 2
からだの科学 秋	両 佐藤 講義 選択	13 26 27 13 2	81	16 32 33 16 2

(7) 教育に関する FD の項目

a) 2007 年度(平成 19 年度)の状況説明

2007 年度(平成 19 年度)の場合、保健体育関連の専任教員（佐藤）は TA の授業に立会って成績評価を行ったので、TA の授業指導を通して自身の授業を振り返ることができた。

本学では教員が他の授業を見学して自身の参考にすることを目的として授業公開を実施しており、保健体育関連の専任教員（佐藤）は積極的に参加している。

各種研修会への参加だが、保健体育関連の専任教員（佐藤）は所属団体（全国大学体育連合関東支部、パフォーマンス教育協会、ダンスセラピー協会）の研修会へ積極的に参加している。

企画として、大学体育連合関東支部との共催で公開講座を兼ねた研修会を実施した。テーマは「ヨガとコンタクト・インプロビゼーション—心身の健康・触れ合うことから始まるダンス—」で、講師は本学の非常勤講師と学外の専門家に依頼した。

b) 点検・評価

保健体育関連科目の授業研究、各種研修会への参加、および企画等は適切に行うよう努力している。

c) 改善方策

研修会の企画についてだが、外部の教員を対象とするには本学は交通の便が良いとは言えない。今後は学内の保健体育関連科目担当教員や類似科目担当教員を対称とするなど別の視点からの実施を考える必要があるだろう。

3. 教員組織に関連して

(1) 教員の構成と採用、昇進に関する項目

a) 2007 年度(平成 19 年度)の状況説明

本学の専任教員は 2007 年度(平成 19 年度)の場合 23 人で、その内、保健体育関連科目の専任教員は 1 名である。保健体育関連科目担当の専任教員の構成の詳細は表 5 のとおりである。

表 5 2007 年度(平成 19 年度)専任教員の構成

職位	所属学科	氏名	年齢	性別	主な担当科目	出身大学・大学院
教授	商学科	佐藤 節子	49	女	健康科学・スポーツ実習 美容スポーツ実習 ダンスセラピー 創作ダンス 健康と生活 身体表現法 からだの科学	お茶の水女子大学・ お茶の水女子大学(院)

専任教員の採用は選考によるものとし、本学の定める就業規則や任用規程および任用基準に沿って行われる。任期付教員の採用は任期付教員規程、非常勤講師の採用は兼任講師規程、TA の採用は教務補助規程に沿って行われる。非常勤講師が大学院修士課程在学中の場合は、TA として採用している。昇進についても、本学の定める任用規程および任用基準に沿って行われる。

採用については、本学の場合、専任教員、非常勤講師ともに知己を頼っている。また、昇進の際には任用委員会で専門家に意見を求めている。

b) 点検・評価

保健体育関連科目の専任教員の構成は大学の規模に適合してはいるが、1 人というのはかなり負担が大きい。可能ならば増加が望ましい。

採用や昇進の基準は、時流の変化に伴って絶えず変化するので、その適切性を常に見定めていかなければならない。また、昇進の場合、審査を受ける者にとって分かり易い結果を示す努力が大事である。

c) 改善方策

教員の構成、および採用や昇進の基準は、常にその適切性に細心の注意を払う必要があるだろう。

(2) 授業及び校務担当に関する項目

a) 2007 年度(平成 19 年度)の状況説明

専任教員の担当授業、コマ数及び校務担当は表 6 のとおりである。

b) 点検・評価

担当授業とコマ数は、本学の基準値に適合しているが、コマ数の上限はもっと下げるべきだろう。

全体的な傾向として教員の負担が増加しているが、良質な授業を行うための準備時間が不足してしまう。

本学では同一委員会への所属は最長 3 年ということになっている。佐藤は教務委員長を 3 年務めたが、教務委員会の責任範囲はかなり広く、負担が大きい。

c) 改善方策

今後も適切な担当授業とコマ数、及び校務担当を検討したい。

表 6 2007 年度(平成 19 年度)専任教員の担当授業とコマ数及び校務担当

教員名	担当科目名	コマ数	合計コマ数	校務担当（所属委員会等）
佐藤 節子	基礎ゼミ I II III IV	4	14	教務委員長
	健康科学・スポーツ実習 A	1		ダンスクラブ顧問
	健康科学・スポーツ実習 C	2		海外留学クラブ顧問
	美容スポーツ実習 B	2		
	ダンスセラピー	1		
	創作ダンス	1		
	健康と生活	1		
	身体表現法	1		
	からだの科学	1		

(3) 組織及び意思決定に対する体育教員の関わりに関する項目

a) 2007 年度(平成 19 年度)の状況説明

組織及び意思決定に対する体育教員の関わりは図 1 のとおりである。

体育に関する運営方法だが、教材費、担当科目やコマ数、および採用や昇進などについての体育専任教員（佐藤）の意見は、所属学科（商学科）長を通して反映される。

その他の事項は事前に関係部署に打診の後、教授会で決定される。体育施設の緊急な経費に関する事項などは、事前に教務課や総務課などの関係部署と掛け合ってから法人本部経由で決定される。

専任教員の委員会への所属は、学長の決定を経て教授会で承認される。専任教員の課外活動への顧問配属は、学生からの打診を経て学生が申請し、学生委員会を経てから教授会で承認される。

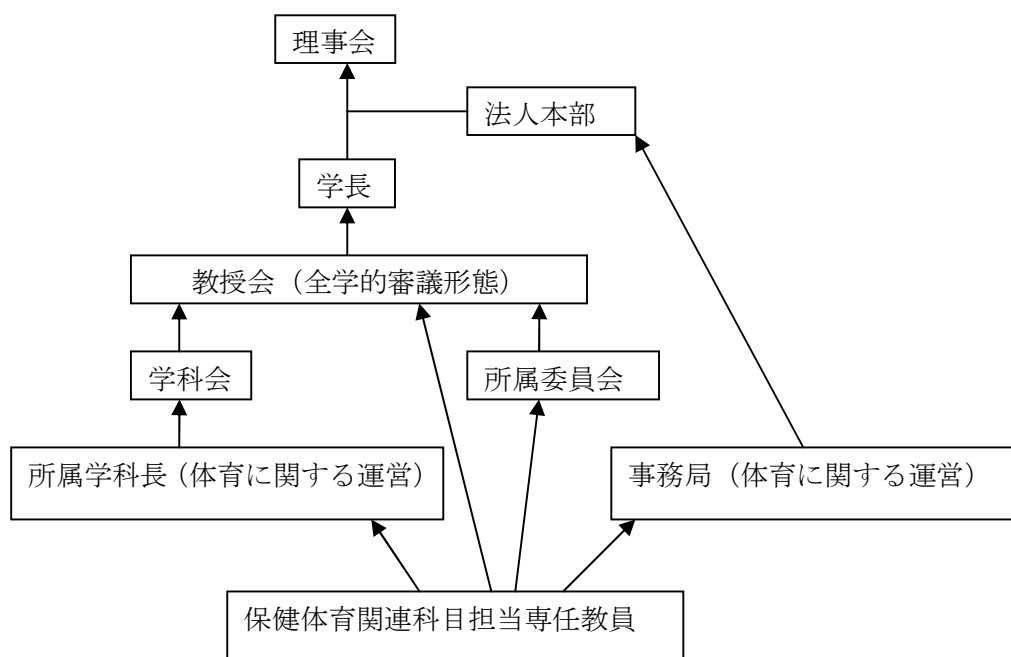
b) 点検・評価

組織及び意思決定に対する体育教員の関わりや、体育に関する運営方法は、組織が小規模のため比較的スムーズに行われていると考えられる。しかしながら、体育専任教員の意見を組織に反映させるには、事前の準備、適切なアプローチ、過剰すぎない粘り強い交渉などが必要である。

c) 改善方策

今後も組織及び意思決定に対する体育教員の関わりや、体育に関する運営方法の適切性については細心の注意を払う。

図1 2007年度(平成19年度)体育の組織運営



(4) 専任と非常勤との関係に関する項目

a) 2007年度(平成19年度)の状況説明

保健体育関連科目担当の非常勤講師は1名、TAが1名である。開講コマ数は、専任が10コマ、非常勤講師とTAが5コマなので、専兼比率は10:5となる。

b) 点検・評価

専兼比率の数値に問題はないと思われるが、現状を見ると、抽選に漏れる学生が多く存在するので、保健体育関連実技科目のコマ数の増加が望ましい。そしてそれに伴う非常勤講師の増加が望まれる。

c) 改善方策

改善方策として、2008年度(平成20年度)には保健体育関連実技科目のコマ数を2コマ、非常勤講師を1名増加した。これにより開講コマ数は、専任が11コマ、非常勤講師とTAが6コマで、専兼比率は11:6となる。

今後も開講コマ数や専兼比率の適切性に配慮する。

4. 研究状況に関連して

(1) 研究活動、学会活動に関する項目

a) 2007 年度(平成 19 年度)の状況説明

所属学会と研究成果の発表状況は表 7 のとおりである。

b) 点検・評価

所属学会と研究成果の発表については、日々努力を重ねている。

c) 改善方策

今後も所属学会と研究成果の発表状況の適切性に配慮する。

表7 所属学会と研究成果の発表状況

氏名	所属学会等	研究成果の発表状況 (H18～20年度)
佐藤 節子	現代舞踊協会 舞踊学会 日本体育学会 日本心理学会 歌舞伎学会 パフォーマンス教育協会 日本健康心理学会 日本養生学会 日本ダンスセラピー協会 全国大学体育連合関東支部理事 上演舞踊研究会編集委員長	1. 著書 「健康行動」「エイズの健康心理臨床」、『健康のための心理学』保育出版、大阪、pp.189, 194-197、2006. 2. 論文 「ダンス創作能力と心身の健康の関連性について」、『埼玉女子短期大学研究紀要』、第 18 号、pp.44-57、2007. 3. ポスター発表 「心身の健康とダンス創作能力に関する一考察」、『日本健康心理学会第 19 回大会発表論文集』、同志社大学、165、2006. 4. その他 「神聖なる喜劇」(石黒節子作品) 出演&ダンス・ミストレス、『現代舞踊協会主催 2007 都民芸術フェスティバル現代舞踊公演』、東京芸術劇場中ホール、2007. 「波濤」(石黒節子作品) 出演、『東京新聞主催 第 35 回現代舞踊展』、メルパルクホール TOKYO、2008.

(2) 研究に関するFDの項目

a) 2007 年度(平成 19 年度)の状況説明

個人研究費は毎年一定額が支給されている。共同研究費の制度は本学にはない。外部資金等の獲得実績はない。在外研修制度は本学にはない。

b) 点検・評価

研究資金に関しては潤沢とは言えない環境下である。

c) 改善方策

組織としての改善方策は、共同研究費や在外研修の制度化が望まれる。個人としての改善方策は、

外部資金等の獲得の可能性を模索したい。

5. 課外スポーツ活動支援に関連して

(1) 課外スポーツ活動支援に関する項目

a) 2007 年度(平成 19 年度)の状況説明

本学の課外スポーツ活動に関する支援は、課外活動運営内規に沿って行われている。課外スポーツ活動の団体登録をして活動計画書や予算書等を提出すると、学生委員会が内容に応じて補助額を決定し、補助金を支給する。

コーチや監督などの指導者を学外から招聘する場合は、顧問の許可を得て招聘願を提出し、学生委員会が許可する。学生が負担する指導者への謝礼等の一部は補助金で支援する。

顧問は活動計画や予算等について指導する立場にあり、専任教員または事務局職員が担当する。佐藤は、ダンスクラブの顧問を 1990 年（平成 2 年）から担当しており、活動の指導をしている。

2007 年度(平成 19 年度)の課外スポーツ活動団体は 8 団体である。その中で、学外からコーチを招聘している団体は 1 団体ある。専任教員が顧問と指導者を兼ねている団体は 2 団体である。近年の課外スポーツ活動内容は、地域の大会出場や大学祭での発表を目標としている程度であり、友達同士で団体を設立して卒業時に解散するなど、継続性のない活動も多い。1 年次には夏季・冬季・春季休暇中のインターンシップに力を入れる学生が多く、2 年になると就職活動が忙しくなるため、課外スポーツ活動にまで余力を注げないのが現状と思われる。保健体育関連の専任教員としては、施設の利用や備品の整備についての指導など、支援できる部分は学務課と連携を取りながら行っている。

本学では課外スポーツ活動を支援するための、セミナーや講習会などは開催していない。

b) 点検・評価

本学の課外スポーツ活動は充実しているとは言えないが、教職員は可能な限り支援しており、コーチや顧問の関わりは適切だと言えよう。できれば指導者への謝礼に対する補助金の向上が望まれる。

c) 改善方策

今後も、課外スポーツ活動を支援するために、保健体育関連の専任教員ができることは可能な限り行い、セミナーや講習会などの開催の可能性を模索したい。

6. 健康管理業務に関連して

(1) 学内の健康管理業務に関する項目

a) 2007 年度(平成 19 年度)の状況説明

本学には、保健室とカウンセリングルームがある。保健室には看護師が常駐し、カウンセリングルームにはカウンセラーが週 2 回常駐している。学生の健康管理業務は学務課学生係で行っており、状況把握の責任は学生委員長にある。

このほかに、セクシュアル・ハラスメント防止委員会があり、セクシュアル・ハラスメント防止・対策規程、セクシュアル・ハラスメント問題の処置に関する細則、セクシュアル・ハラスメント防止・対策ガイドライン、セクシュアル・ハラスメント問題処理のフローチャートに沿って行っている。

保健体育関連の専任教員は、授業を通して健康に関する情報を発信し、学生の健康の自己管理を支援している。健康管理業務とは連携していない。

b) 点検・評価

保健体育関連の実技の授業時に緊急事態が生じた場合の保健室との連携の方法などについて、非常勤講師と申し合わせをしておくとういだろう。

c) 改善方策

今後も学内の健康管理業務の適切性には絶えず関心を払って行き、機会があれば保健体育関連の専任教員として学内に提案をしたい。

7. 各種サービスプログラム業務に関連して

(1) 学内サービスプログラム及び社会貢献に関する項目

a) 2007 年度(平成 19 年度)の状況説明

2007 年度(平成 19 年度)は、学内サービスプログラムとして、大学体育連合関東支部との共催で研修会を兼ねた公開講座を企画実施した。また、学内行事として毎年 5 月にスポーツデーの実施があり、この運営の所管は学生委員会であるが、保健体育関連の専任教員からの支援ということで、体力測定サービスプログラムを提供している。

社会貢献としては、佐藤は日高市役所からの要請で日高市環境審議会委員を担当した。

b) 点検・評価

学内サービスプログラム及び社会貢献に関しては、可能な限りの努力を行っている。

c) 改善方策

今後も学内サービスプログラム及び社会貢献への関わりの適切性に配慮していく。

8. 点検評価活動に関連して

(1) 過去の自己点検評価や第三者評価に関する項目

a) 2007 年度(平成 19 年度)の状況説明

大学全体の自己点検評価は毎年行い、報告書を作成しているが、その中に体育関連の項目はない。また、第三者評価は 2011 年度(平成 23 年度)に受ける予定であるが、その中にも体育関連の項目はない。

本学では教員の個人評価報告を毎年行っており、その中で自身の保健体育関連科目について点検評価してきたが、体育関連の総合的な点検評価ではない。

2007 年度(平成 19 年度)から、従来の点検項目に加えて年度の初めと終わりに自己申告書を作成し、年間の成果について学科長に報告し、面談して評価を受けるシステムになった。

b) 点検・評価

2008 年度(平成 20 年度)には、全国大学体育連合の大学体育 FD 推進校に応募することで、2007 年度(平成 19 年度)分の保健体育関連の点検評価を行った。指定する評価項目に沿って点検することで、保健体育関連の様々な事項を洗い出すことができ、大変良い。

年間の成果について学科長に報告して面談するシステムは、自身を振り返るという意味では良いだろう。

c) 改善方策

今後は、全国大学体育連合の指定する評価項目を参考にして、総合的な保健体育関連の点検評価を行い、教員の個人評価報告に添えたいと思う。

(2) 現在の点検評価活動と今後についての項目

a) 2007 年度(平成 19 年度)の状況説明

体育独自の授業評価は行っていないが、大学全体では学生による授業評価を行っている。大学全体の評価項目は次に示す 3 項目で、学生はそれぞれ 5 段階で評価し、自由記述もできる。集計結果は教員にのみフィードバックし、各教員が今後の授業の参考資料として利用している。

1. あなたはこの授業を熱心に受講しましたか。(熱心ではない～非常に熱心である)
2. 授業はわかりましたか。(わからない～よくわかる)
3. あなたはこの授業を受けて良かったと思いますか。(良くなかった～たいへん良かった)

大学全体の授業評価以外に、教員はそれぞれ独自の評価を行っている。佐藤の担当する授業では毎回受講の記録を提出させ、学生の質問や要望などに対応している。

b) 点検・評価

体育独自の授業評価は行っていないが、今後その必要性があるか、行くとすればどのような項目が良いのか、など様々な可能性を模索するとよいだろう。

c) 改善方策

今後も体育独自の授業評価や大学全体の点検評価の状況の適切性について関心を払って行く。

9. その他

(1) 施設・設備及びその運営管理に関する項目

a) 2007 年度(平成 19 年度)の状況説明

本学の体育関連の予算としては、学科ごとの教材費がある。各教員は所属する学科長に予算申請をする。体育関連の予算も同様に保健体育関連の専任教員が申請する。非常勤講師とも連絡を取って必要な教材を極力そろえている。

教材の管理は保健体育関連の専任教員が行っており、備品の一覧表を作成し、数や劣化状態の点検をしている。また、常に体育館やテニスコートの倉庫・教員室・更衣室の整理・整頓・学生のしつけを心がけており、更衣室の放置私物も整理している。放置私物の保管には学務課の協力も得ている。

体育館の清掃と修理、グラウンドの芝生の管理、テニスコートのメンテナンスなど施設・設備の管理は総務課が業者に委託して行っている。体育関連の施設・設備に関して要望等があるときは教員が学務課へ申し出、学務から総務へ申し送りすることになる。案件によっては学科長や学長、及び事務局長をも巻き込んで調整し、法人本部の決定を仰ぐこともある。

b) 点検・評価

体育関連予算や施設・設備の管理方法の適切性に問題はないと思うが、現場の要望を反映させるには、事前の準備、適切なアプローチ、適度なアピール、過剰すぎない粘り強い交渉などが必要である。

c) 改善方策

今後も体育関連予算や施設・設備の管理方法の適切性に配慮していく。

表8 体育施設の面積

施設名	面積 (m ²)
体育館 (バスケットボール2面)	1394.28
テニスコート (3面)	2019.66
グラウンド (サッカー1面)	11850.34

(体育施設の略図は、資料2 学生ハンドブック p. 87, p. 95、資料1 大学案内 p. 59 参照)

(2) 随意点検項目

a) 2007年度(平成19年度)の状況説明

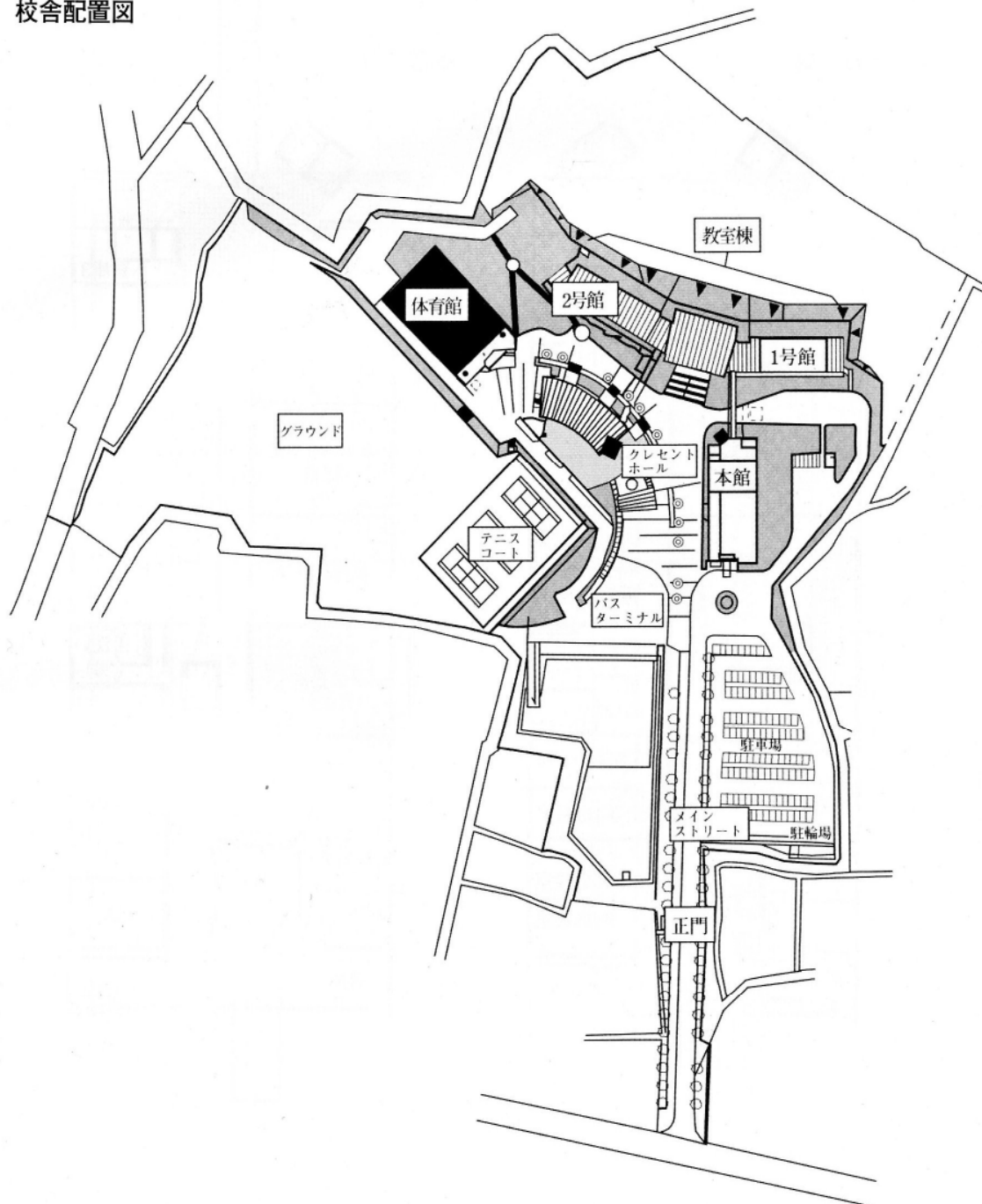
本学で設定している点検項目は特にない。

b) 点検・評価

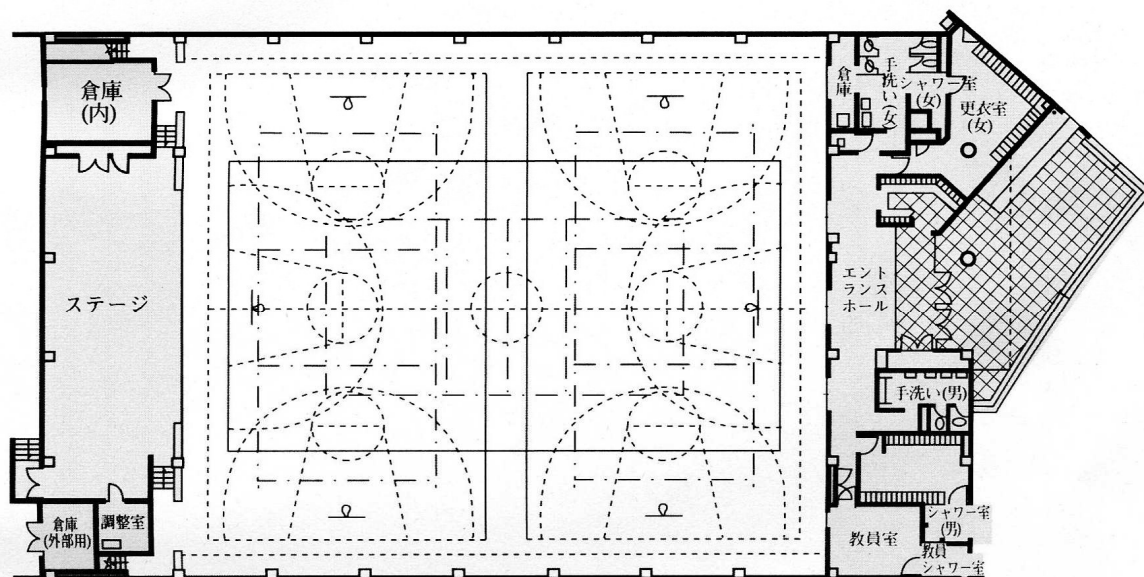
c) 改善方策

資料2 学生ハンドブック (抜粋)

校舎配置図



体 育 館



資料４ 保健体育関連科目の時間割表

表 7 2007年度(平成19年度)保健体育関連科目時間割表

	I	II	III	IV	V
月					
火		健康科学・スポーツ実習 B 春 鹿島	美容スポーツ実習 A 春 鹿島		
		健康科学・スポーツ実習 B 秋 鹿島	美容スポーツ実習 A 秋 鹿島		
水			健康科学・スポーツ実習 C 春 佐藤		
			健康科学・スポーツ実習 C 秋 佐藤		
木	健康と生活 春 佐藤	健康科学・スポーツ実習 A 春 須田（佐藤）			
	身体表現法 秋 佐藤	健康科学・スポーツ実習 A 秋 須田（佐藤）			
金			美容スポーツ実習 B 春 佐藤	ダンスセラピー 春 佐藤	
	からだの科学 秋 佐藤		美容スポーツ実習 B 秋 佐藤		
					創作ダンス 秋 佐藤

埼玉女子短期大学

所在地

〒350-1227 埼玉県日高市女影 1616

TEL 042-986-1616 (代表) FAX 042-986-1518

Email: sato-setsuko@saijo.ac.jp

制作責任者：佐藤 節子